

令和3年（2021年）加賀市農業委員会事業報告

（農業を取り巻く概況）

令和元年12月末から世界的に感染拡大が始まった新型コロナウイルス感染症は、拡大と終息を繰り返しながらも現在も予断を許さない状況である。

そのような中、食の多様化や人口の減少で進む「コメ離れ」に、コロナ禍による外食控えが追い打ちを掛け、コメ余りが顕著になり米価が大きく下がり、県内JAの仮渡金も前年から大幅な減額となった。

今後、長期的な対策がなければ、離農者の増加や耕作放棄地の増加が懸念される

（加賀市農業委員会の取組み概要）

令和2年11月に刷新された加賀市農業委員会活動のこの1年は、コロナ禍の中、制限を受けざるを得ず、その中でも定例総会を毎月開催し、各委員が農地パトロールをそれぞれの地区で行うことができた。

しかし、当初想定していた地域での話し合い・懇談ができず、次年度に先送りとなり、各種大会や研修会もリモート・オンラインによるものがほとんどで、各委員それぞれの意見交換や交流も制限され充実感の乏しい一年であった。

そのような中ではあったが、「農地等の利用の適正化」の取組みにおいては、担い手への農地利用の集積・集約化にあっては、161筆、約25.5ヘクタールの利用集積が図られた。（令和2年12月末：577筆、103.8ヘクタール）、新規就農者では、市に1件の相談が寄せられたものの、残念ながら新規就農には結びつかなかった。

1 優良農地の確保と有効利用に係る専属権限事務に関する知見の向上 定例総会に併せ研修会を6回実施

- 農業者年金 2月23日
- 農地法第3条・下限面積 7月26日
- 農地パトロール 9月24日

- 農地法第3条 10月25日
- 農地法第4条、5条 11月25日
- 農業者年金制度の改正 12月22日

2 農地等の利用の最適化の推進に係る地域状況の把握及び情報の共有化 等

(1) 現場事情の把握

農業委員会だより（6・7・8号）を通じての担い手などとコミュニケーションを図り、情報の収集を併せて行った。

(2) 農地パトロール

農地パトロール実施（9月末～）、衛星データやAIを活用した実証事業を行った。

3 人農地プラン

JA加賀に於いて加賀市担い手支援チーム会議に参画（6月16日）したが、農業委員会として各地区での懇談会が開催できなかった。

令和4年1月28日

加賀市農業委員会
会長 中村 義隆